

みつめていると、母は、「すっとび小僧」や「花折りザル」の話をしてくれるのであった。「すっとび小僧」は、アルプスの峰から峰を、ぴょんぴょん飛び廻って、手に負えない、いたずらばかりして歩く小僧の話。「花折りザル」は、たいそう、怠け者の子ザルで、花を折っては、暗くなるまで、遊び呆けているサル。そして、いつも、道に迷っては、オーイ、オーイと、悲しげに、大声で泣くサルの話。なまけものの私は、「花折りザル」の話を聞くと、なまけもので、日の暮れるまで遊び呆ける私に似ていて、胸の痛みと、しんしんとした侘しさを感じるのであった。そのくせ、この話が好きで、この話を、よく、母にせがむのであった。今になって考えてみると、どうも、「すっとび小僧」も「花折りザル」も、母の創作であったような気もする。

母と風呂にはいったのも夕方。手をひかれて買い物に行ったのも夕方。野の道を、遠く遠く、歩いたことがあったが、それも夕方。どうも、思い出されるのは、夕方ばかり。おかしなことである。椋 鳩十

プログラム

新入会員卓話 「武生と金沢」 三嶋会員

私は、金沢国税局に採用されまして、主として総務、人事、秘書などを経験し石川県内の税務署にも勤務しました。国税局は、北陸三県を管轄しており、事務指導をしてきづいたことは、石川は理解は早いがなかなかまとまらない、福井は社交的でフレンドリー、富山はすぐグループにまとまる。



それぞれ県民性に特徴があり、興味深く上手に指導しなければなりませんでした。ところで、武生に通うことになり、どうしても金沢と比較してしまいます。まず、武生市がなくなり越前市になっていたことは、電車に乗って通りすぎていただけではわかりませんでした。特急しらさぎに乗りますと、石川は、金沢、小松、加賀温泉の3駅、福井は芦原温泉、福井、鯖江、武生、敦賀の5駅に停車します。ほとんど乗り降りする人はなく、金沢は三年後に新幹線が来ますので、大分以前から工事が進んでいたような気がしますが、福井県にきますとずいぶん静かなよう気がします。そこで駅に降りますと路線バス停がありますけど、バスは来ず、タクシーに乗らなければならず不便です。人影も少なく、自家用車のほうが多いのでしょう。次にびっくりしたのは、この商工会議所の建物です。タンボのなかで車で走ってくると突然あらわれその立派なのに感心しました。金沢の会議所はとても貧弱で建て替えするそうですが、

とてもたちうちできません。武生の底力のような気がします。九月には、武生国際音楽祭2012が開催されます。金沢も毎年テーマをきめて世界的な「ラフルジュルネ音楽祭」を開催しております。人口でくらべますと、金沢は46万人、武生は9万人です。これだけをみましてもこの音楽祭は、規模といい文化的の高さはすばらしいと思います。ぜひ成功されることと信じています。

金沢と武生は、歴史的にも伝統工芸の面でも共通するところが多々あります。越前和紙、漆器、打ち刃物等、又石川では、九谷焼、漆器、金箔など伝統と匠の技術をもつ伝統工芸の集積地です。

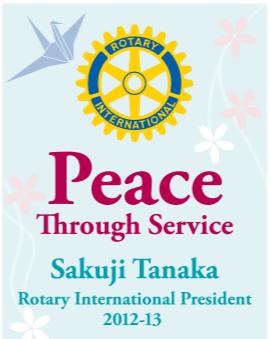
幸福度日本一、おいしい食べ物全国5位の福井県で仕事ができることは、大変幸せでがんばりたいと思います。

「芸術部会について」 三田村士郎会員

本日は20代で出会ったJC芸術部会についてお話ししたいと思います。24歳の時、当時34歳の河合会員の推薦で武生JCに入会し、翌年織田会員が県のブロック会長に就任された時、事務局員として1年間勉強をさせて頂きました。その時日本JCに業種別部会があることを知り、問い合わせをして芸術部会に入会しました。この部会はJCの基本理念の基、1970年に芸術文化の振興に寄与することを目的として茶道、華道、洋画、日本画、工芸等、芸術にたずさわっている者、また芸術を愛する人達によって構成されていました。名誉顧問として著名な方もおられ、毎年恒例の京都会議には必ず部会全員で今日庵に集合し、新年のご挨拶に行きました。今日庵のお茶室でお茶をいただき、また、新年の新しい扇子が入ったお土産を頂き、芸術部会の一年が始まります。部会の事業としては、年数回の先輩訪問と、活動を発表する場として会員のチャリティー展を行いました。先輩訪問では、華道の安達暁子先輩、人間国宝になられた藤原雄先輩等を訪問し、仕事についてのお話や、心のこもった美味しいお酒を用意して頂きいつも楽しい時間を過ごさせていただきました。現在も、機会があれば部会にでかけ旧交を温めております。いろいろな出会いを作つて頂きました芸術部会は、私にとりまして人生のエキスを感じております。

ニコニコ箱 …… 38,000円

- 山内長之助 ○渡辺佳男 ○竹内紀昭
- 京藤敏実 ○田中茂 ○三嶋悦子



TAKEFU WEEKLY



Rotary Club of Takefu

創立／1954年（昭和29年）6月30日

事務局／〒915-8522 越前市塚町101 武生商工会館内

TEL.0778-23-5210・FAX.0778-22-2333 E-mail:takefurc@es.ttn.ne.jp

例会日／毎週火曜日 例会場／武生商工会館

会長／佐々木忠彦 幹事／河嶋一 会報委員長／丹羽新吾

2012-2013 第2650地区テーマ
隔たりをなくそう

ると母親が言うと、ああ夏が来たな、といつも思う。麻の蚊帳の湿ったようなにおいをかぐたびに、夏が来た、もうじき夏休みだ、と思う習慣がつくようになったのである。はじめて蚊帳をついた夜などは、ものめずらしくて、晩飯前から蚊帳のなかにはいっては、さかだちのような恰好をして、足で蚊帳の天井を蹴ったり、すぐ次の弟と組み打ちをしたりして、はしゃぐのである。でたりはいったりすると、蚊がはいるから、寝る前に蚊帳のなかにはいってはいけない、といくら母が制しても、私たち兄弟は蚊帳をでたりはいったりして、夏の前ぶれを歓迎せずにいられぬのである。当然、蚊帳のなかにはたくさんの蚊がはいりこんで、寝ている私どもを刺すことになる。そして九時か十時頃か、寝る前の母親が私どもの蚊帳にはいってきて、必ず蚊を征伐してくれることになる。母親はローソクに火をつけて、丹念に蚊帳を調べ、蚊がとまっていると、ローソクの火を近づけて、焼き殺すのである。たっぷり血を吸った蚊は、じっと蚊帳にとまっていて、実にタアイなく焼き殺されるものらしい。その時分は昼間遊び疲れている私どもは、たいてい寝ているのだが、タマにまだ眠っていないくて、自分でもローソクで蚊を征伐したくなるときがあつても、決して母親は許さない。平野 謙すっとび小僧

どういうものか、いつも、はっきりと心に浮かんでくる母は、私の幼い日の母である。したがって、顔も、声も、若いのである。晩年の母の顔は、次第に、私の心から、ぼやけていく。これもまたどういうものか、母の思い出の背後には、いつも、夕方の景色がともにある。

母の居間は、仮壇のある一番奥の部屋であった。西側の障子を一杯に開いて、部屋と縁側の境目のところに、きちんと座って、ぬいものをしている母の顔には、夕焼けの色が、ほのかに赤く映っていた。私は、そういう、母の顔が好きであった。母のそばに、ごろんと、横になって、赤みの射した母の顔をじっと、



第2832回 例会記録 平成24年8月21日(火)

会員総数61名（内出席免除会員8名） 本日出席会員35名

メークアップ（前々回） 7名

出席率（前々回補正） 74.55%

ロータリーソング「我等の生業」

会長挨拶 渡辺副会長

佐々木会長のお母さんが、昨日の朝、85歳を一期に西方淨土に旅立られました。謹んで追悼の誠を捧げたいと存じます。お母さんの面影をテーマにした隨筆を紹介させて頂きます。

観音

小さい頃から禪宗の寺で育ったので、どこの寺へ行つても観音像があるのに心を惹かれた。どう見ても女性のように思えた。男しかいない禪宗なので、暗がりの本堂の奥に立つその観音像が、女性に見えるのはちょっとそこだけ妙な雰囲気である。しばらく眺め入るうちに、これは黒い衣をまとつて修行する男たちが生み出した、母なる人の像のようにも思えてくる。在家なら女性はつねに身近にいて自然だが、禪寺にはだいこくさんはいても、ほとんど、つねには小僧の身辺に女性はない。それゆえ、九才で母と別れて修行を強いられているぼくには、当然、人より母に憧れる思いがあったろう。にしても、本堂のその観音像は、ぼくもふくめて、黒ずくめの僧たちの憧れのようにも思えてきたものだ。水上 勉 母の記憶

いまごろの季節になると、毎年必ず思い出すことがある。小学生のころのことだが、たしか六月に入ると、私どもの村では蚊帳をだして寝なければならない。私どもの村には蚊が多く、大きな蚊帳がでてくるので、六月ごろになると、どうしても蚊帳をつらなければならないのである。今夜から 蚊帳をつ